



住まいのことなら
大きな事から小さな事まで
ぜひ、ご相談下さい！



『地震大国・日本』 今の住まいで確認すべきことは



■ 耐震性の確認

木造一戸建て住宅にお住まいの方の場合、自宅の倒壊危険度がどのくらいかを把握する為、自宅の耐震基準を確認することが重要となります。

建築基準法が改正された1981年5月31日以前に建てられた旧耐震基準の住宅は、震度6以上の大きな地震が発生すると倒壊してしまう可能性が高くなると想定されています。しかし、過去の震災では新耐震基準（1981年6月1日以降）であっても倒壊した事例が報告されています。じつは「新耐震」とはいえ、1981年～2000年まで大きな幅があり、耐震性能にもばらつきがあるということも知っておいていただきたい項目の一つになります。

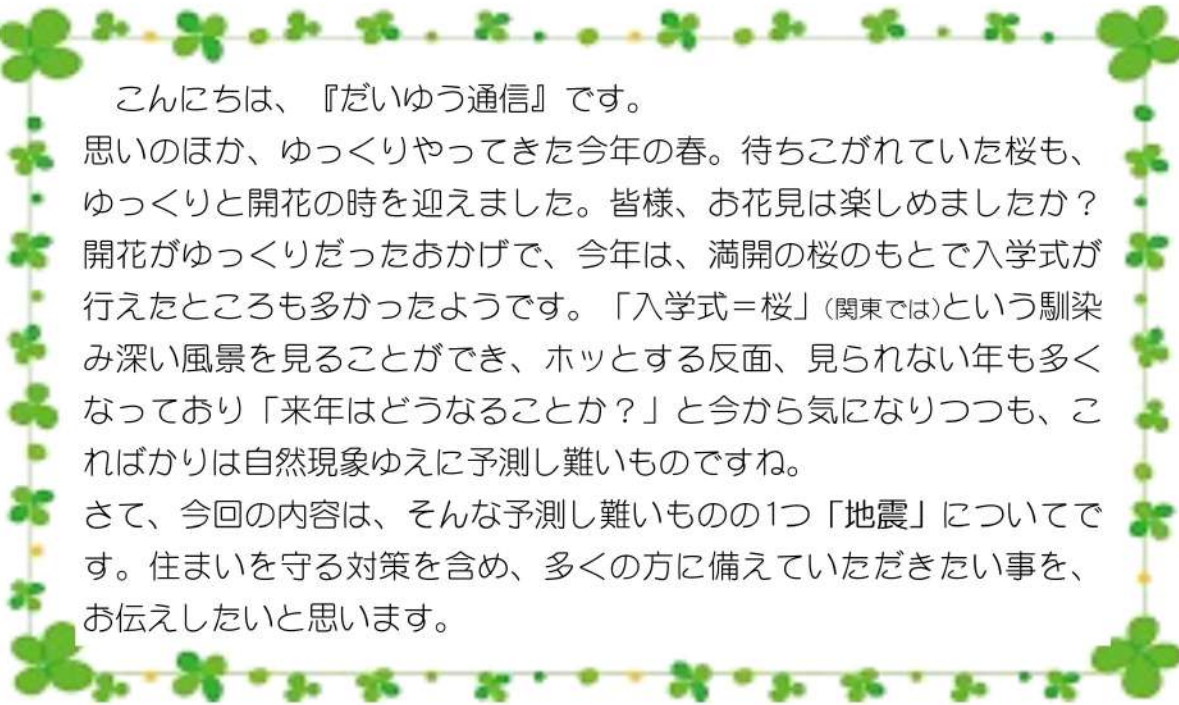
現在の耐震基準（2000年基準）は、中でも「耐震等級3」の水準は高く、震度7を2回記録した2016年熊本地震においても軽微な被害で

済みまし。いずれにせよ自宅の現状を確認し、必要に応じて耐震補強を行うことも検討しなければなりません。



■ 耐震診断と補助制度

旧耐震基準の住宅で耐震診断や耐震改修工事等を行う場合、多くの自治体が補助制度を設けています。宮代町はもちろんのこと近隣の市町でも交付申請を行っています。当社は、宮代町の耐震診断登録業者であり、建築士会協会にも登録しております。何かございましたらお気軽にお問い合わせください。



こんにちは、『だいやう通信』です。

思いのほか、ゆっくりやってきた今年の春。待ちこがれていた桜も、ゆっくりと開花の時を迎えました。皆様、お花見は楽しめましたか？開花がゆっくりだったおかげで、今年は、満開の桜のもとで入学式が行えたところも多かったようです。「入学式=桜」（関東では）という馴染み深い風景を見ることができ、ホッとする反面、見られない年も多くなっており「来年はどうなることか？」と今から気になりつつも、こればかりは自然現象ゆえに予測し難いものですね。

さて、今回の内容は、そんな予測し難いものの1つ「地震」についてです。住まいを守る対策を含め、多くの方に備えていただきたい事を、お伝えしたいと思います。

複数のプレートがぶつかり合う、世界でもまれな場所に位置する日本。

元旦には能登半島で、最大震度7を記録した地震が起こり、甚大な被害をもたらしました。今年も「3.11」が過ぎましたが、2月下旬からは千葉県東方沖で地震が相次ぎ、その後も各地・隣国でも発生し、気象庁が注意を呼び掛けています。

地震予知に関する研究は進んでいるものの、発生にはさまざまな要素を加味する必要があり、そのメカニズムは複雑で、「いつ・どこで・どのような」規模の地震が起きるのかを完全に予測することはできません。

もはや日本のどこに住んでいても被災する可能性はあります。日頃からいざというときの行動、災害に関する備え、対策をしておくことが重要です。

災害時には、家屋の倒壊や火災、津波、液状化など様々な災害を想定しつつ、備える必要があります。中でも重要となるのが住まいに関する対策です。

2016年に起こった、熊本地震の後に「だいやう通信」にて備えや対策について掲載しましたが、能登半島地震により、住まいの地震対策への関心がさらに高まっている今、地震に備え「より安全な住まい」にする参考になればと思います。



■ 防災対策で重要な『自助』の精神を忘れずに

災害により被害をできるだけ少なくするには、一人ひとりが自ら取り組む「自助」、地域や身近にいる人同士が助け合って取り組む「共助」、国や地方公共団体などが取り組む「公助」が重要だと言われています。

その中でも基本となるのは「自助」です。自助とは、自分自身や家族の命と財産を守るために、自分+家族で防災に取り組むことです。「自分（家族）の身は自分（家族）で守る」の考えのもと、日常的に『災害に対する備え』や『災害時の対応』を決めておきましょう。まずは、身の安全が第一です。そして、非常事態で生活していくための水や食料などを備えておくことも重要です。さらに、自分の家の安全対策（耐震性を高める）をしておくとともに、避難場所や、避難経路の確認などもしておきましょう。また、家族がそれぞれの場所で災害に遭遇した場合に備え、連絡方法や身の安全の守り方を家族で話し合っておくことも大切です。そして、災害時に円滑に助け合いができるように、日常から地域での助け合い「共助」についても備えておきましょう。日頃からの声掛けや、地域の防災訓練などに参加することも備えになります。大規模災害時では公助の機能に限界がありますので、災害からの被害を出来る限り抑えるためには、平常時から、自ら取り組む自助、地域で取り組む共助を実施し、大規模災害に備えることが必要になります。



★「ローリングストック」在宅避難に必要な備蓄とは

「ローリングストック」とは、普段の食品を少し多めに買って置き、賞味期限の古いものから消費して、消費した分を買い足すことで、常に一定の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。赤ちゃんや高齢者をはじめ、配慮が必要な方のための食品や、日常的に消費量が多い生活用品なども合わせて準備しておく、いざという時に安心ですね。

家庭備蓄の目安 = 家族の人数 × 最低3日分

(※できれば一週間分備えましょう)

4人家族の場合

- ・水：36L = 1日3L/人 × 4人 × 3日間
- ・食料：36食 = 1日3食 × 4人 × 3日間 (個々の好みの食品であればより◎)
- ・トイレ：60回分 = 1日5回 × 4人 × 3日間 (簡易トイレなど)
- ・カセットコンロ：1～2台
- ・カセットガス：12本 = 1本/人 × 4人 × 3日間
- ・乾電池：単1～単4までのセット



その他、ラジオ・LEDライト/ランタン・ポリタンク・乾電池式充電器・感染症対策に使用する衛生用品など。

参考にしてください。

【我が家の耐震チェック10項目】

※参考にしてください

- ① 1981年前に建てた
- ② 今までに大きな災害にみまわれたことがある (地震・水害等)
- ③ 増築を2回以上実施した
- ④ 傷んだり、老朽化している・シロアリの被害にあった
- ⑤ 建物の平面がLの字・Tの字など複雑な形に近い
- ⑥ 大きな吹抜けがある
- ⑦ 1階と2階の平面が一致していない
- ⑧ 壁の位置がバランスよくとれていない
- ⑨ 屋根が瓦であり、壁量が比較的少ない (屋根葺き材の種類と壁量)
- ⑩ 布基礎でひびが入っている

7つ以上当てはまる場合は要注意です。早めの耐震診断をお勧めします。

また、7つ以下でも主要構造部である壁や基礎が傷んでいる場合は、念のため専門家に見てもらおうと安心ですね。



先日、能登半島地震の被災地へ、支援のために派遣された宮代町役場の職員の方に話しを伺う機会がありました。現地で、被災者の方が一番不便にしていたのが、**トイレ**だそうです。地震で家に問題が起きたとき、多くの場合は避難所を訪ねることになるでしょう。大勢の方が使用するトイレは、気をつけて使用していても常にきれいな状態

に保つことは難しいと言えます。このことは、特に女性の方の精神的な負担が大きかったそうです。また、避難所での生活は、心や体のストレスに大きな影響を与るともいわれています。災害が起こってもなるべく住み慣れた家にとどまれるよう、日頃からの備え (ローリングストック等) と対策 (耐震補強などメンテナンス) が必要ですね。



今年度も、国による「住宅省エネ2024キャンペーン」が始まりました。当社では、昨年度の住宅省エネ2023キャンペーン・こどもエコすまい支援事業で1件、先進的窓リノベ事業で9件の申請を行いました。昨年迷われていた方がいましたら、是非ともこの補助金を上手に活用して、健康的で家計にやさしい省エネ住宅の新築やリフォームを検討されてみてはいかがでしょうか？詳しくは当社までご相談お問い合わせください。



施工前



施工後

宮代町 N様邸

水回りの改修工事を行いました、宮代町のN様邸。工事の中で、外壁から窓の交換もありましたので、断熱性能も兼ね、住宅省エネキャンペーンの補助金を利用し、窓3ヶ所と勝手口ドアの入替、増設を行いました。



須加駐在所



原道駐在所



井泉駐在所

当社施工現場ご紹介

羽生市・井泉駐在所
加須市・原道駐在所
行田市・須加駐在所

7月より施工しておりました【井泉・原道・須加】3つの駐在所が、完成致しました。3現場同時進行での作業だった為、現場から現場への移動も多く、各業者の皆様には大変お世話になりました。お近くを通ることがございましたら、新しくなった駐在所を、ぜひ、ご覧ください。

